

ぽこ・あ・ぽこ

Poco a Poco イタリア語で「少しずつ」という意味です。

第36号 平成16年2月15日 発行

発行者
社会福祉法人 神戸婦人同協会 子供の家
〒661-0974 兵庫県尼崎市若王寺3-16-3
tel 06 6491 8953 fax 06 6498 3444
支援センター (tel. fax) 06-6491-1811
E mail (子供の家) info@kodomono-ie.org
(支援センター) candy@kodomono-ie.org
URI http://www.kodomono-ie.org

節分

二月三日(火)は節分、夕食に太巻き寿司を食べた後、豆まきをしました。職員と中学生の男児が鬼に変装して各居室を大きな声とプラッチクのバットを持って回りました。鬼に「すぐ怒る子は誰だ!」「意地悪をする子は誰だ!」と言われ、幼児は泣きながら「もう怒らない」「意地悪はしない」と言い、やっこの思いで豆をまいていました。小学生は、職員が鬼になっている事を知っているので、手加減なく豆を投げてくる為、鬼はすぐに退散していました。鬼達も子ども達に本当の福が来るようにと祈っていました。



ひな人形

二月七日(土)子供の家の玄関に七段のひな人形を子ども達と一緒に飾りました。毎年、人形の位置がわからなく、昨年写した写真を見ながらやっと完成しました。全女児が無事に花嫁に行ける様にと三月三日の夜に片付けをします。



レオ・クラブ児童育成キャンプ

このキャンプはレオクラブ主催のキャンプで小学生対象に約百名の児童が参加し、キャンプ生活を通じて、楽しみながら子ども達に責任感や協調性を養い、友達を増やし充実した日々を送ることを目的としています。今年は一泊二日香川県立五色台少年自然の家で実施され、子供の家から小学生六名の男女が参加しました。レクリエーション、天体観測、うどん作

韓国との国際交流

ソウル神学大学の実習生四名は、二月二日(月)～十日(火)まで子供の家に泊まり、子供の家での実習以外に西宮こどもセンター、砂子療育園(重症心身障害児施設)、サン野菊(母子生活支援施設)等の見学や講義を受けられました。特に五日は、田中あき子氏宅を訪問し、日本の伝統文化である琴、茶道、花道、着物など貴重な体験をしました。

★韓国の実習生からのメッセージです。

一週間という間、本当にありがとうございました。帰ることになりまして寂しいです。韓国に帰っても子供の家的小伙伴们と一緒に遊んだ時間は忘れません。ぜひ韓国に遊びに来て下さい。

(元眞雅)

みんなと過ごした一週間がとても早く過ぎました。子供の家で、明るい先生たちとかわいらしい子どもたちと一緒に過ごす時間がとても嬉し

り、ウォークラリーが行われました。子ども達は「天体観測で見た土星がとても大きかった」「雪が降ってきた嬉しかった」「うどん作りは難しかった」と楽しそうに感想を述べていました。レオクラブの皆さん、ありがとうございました。



(韓 ester)

施設の職員や子どもたちから色々配慮していただきました。本当にありがとうございました。可愛い子どもたちみんなの笑顔は忘れません。子どもの家の家族に感謝しています。
(李 允敬)

(趙 漢仙)

かったです。子供の家のみんなが私たちに下さった関心と愛に感謝しています。韓国に帰って「頑張れる人」になるようにします。

チルドレン・グリーンカップ・サッカー大会 (C.G.C)



一月二十四日(土)兵庫児童養護連絡協議会主催のチルドレン・グリーンカップ・サッカー大会が加古川市の日岡山公園陸上競技場で十一施設十二チームがエントリーして行われました。
今大会は、年々サッカー経験者が少なくなっている中で皆が健闘したと言えました。ブルーフェニックス(子供の家)の予選リーグの初戦は、信和学園と戦い四対一で勝ち、二戦目も泉心学園に二対〇で勝ち、決勝リーグの切符を手に入れました。決勝リーグは二対一で勝ち、二回戦に進出しました。準決勝では宿敵の尼崎学園で前半は頑張る事が出来ていたのですが、点を取られる内にチームのムードが悪くなり〇対六で完敗し

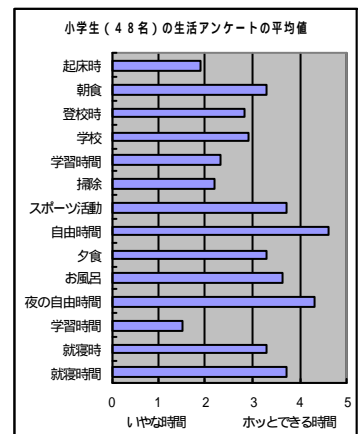
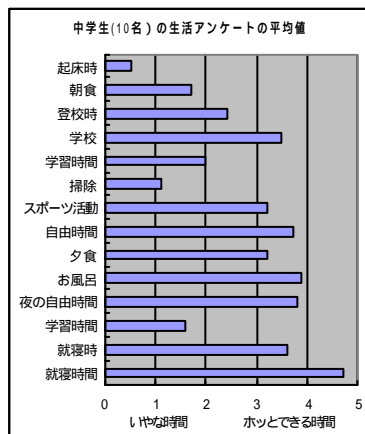
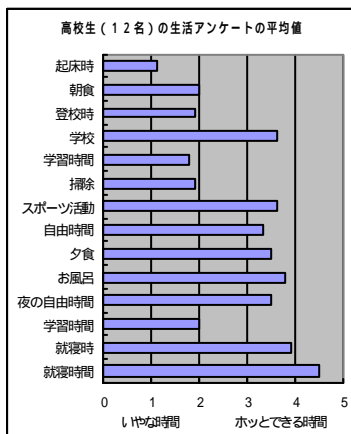
子ども達の生活アンケート

てしまいました。三位決定戦では前年度優勝の二葉園と当たり、一対六で敗れ四位と惜しくもメダルに手が届きませんでした。試合の結果は四位でしたが、皆が最後まで諦めずに頑張り通す事ができ、本当に素晴らしい試合でした。
ブルーフェニックス・コーチA君(高校三年生)の報告と感想でした。

兵庫児童養護連絡協議会の心のケア専門委員会が実施された「みんなの生活についてのアンケート」の中で子供の家の子ども達のアンケートの平均値を集計しました。このアンケートでは幼児を除く全児童を対象に行われ、一日の生活の中でいやな時間、あるいはホッとできる時間を〇〜5の段階でアンケート調査しております。また、ホッとできる場所と時間、いやと感じる場所と時間も聞き、今回は子供の家のベスト3とワースト3をあげています。

一日の生活の中でいやな時間、ホッとできる時間について

0.ものすごくいやな時間
1.いやな時間
2.少しいやな時間
3.少し楽しくホッとできる時間
4.楽しくホッとできる時間
5.とても楽しくホッとできる時間



***ホツとしたり落ち着ける場所ベスト3**

- 小学生
 - 居室(十五名)
 - ベット(十四名)
 - 園庭・ホール(二名)
- 中学生
 - 居室(二名)
 - 独り部屋(二名)
- 高校生
 - 居室(五名)

***いやと感じる場所・時のワースト3**

- 小学生
 - トイレ(十名)
 - 学習室(五名)
 - ホール(四名)
- 中学生
 - 登校前(二名)
- 高校生
 - トイレ(二名)
 - うるさい所(二名)

まちの子育てひろばキャンディ

キャンディでは、昨春秋より兵庫県が推進している「まちの子育てひろば」を開設しました。まちの子育てひろば「きゃんてい」の活動内容を紹介します。

就学前までの子どもさんが親子で自由に遊べる「まちの子育てひろば」をキャンディでは、プレイルームとホールを使って毎週月曜日に実施し

ています。

昨年十月から今年の一月までで登録者は八十五名になりました。安心して遊べる場所の開放ということで、登録者は毎週増えています。多いときで二十組前後の利用者が来られます。

利用が多いのは、一才児から二才児の子どもさんです。

最近では0歳児の子どもさんを背中におんぶして、上の子どもさんを遊ばせるために来るお母さんも増えました。

ここに来ると、親もほっとするの、親同士の話が弾むようです。親同士が情報を交換したり、交流をはかったりしています。

日々成長していく子どもたちに、よりよい時間と空間を過ごしてもらえよう、今後さまざまな工夫をしていきたいと思っております。

キャンディでは、「まちの子育てひろば」の他、昨年十一月から子育てがづらい親たちの回復支援プログラム「マイツリーペアレンツプログラム」も実施しています。

この二月、ホールに新しい空調設備がつけました。

こども家庭支援センターキャンディは、子ども達や親たちへの相談・支援活動を本児童養護施設と連携を深めながら今後さらに豊かに進めていきたいと思っております。



監査がありました

今年も施設にとって最大の行事である兵庫県による監査が去る二月四日に実施されました。

大きな指摘としては、今年度併設された児童家庭支援センター部分が消防設備は整っているが消防署への変更の届出が遅れているという指摘を受けました。

また、職員の定着率が良くないという指摘をつけました。

この件については、職員配置上過酷な勤務を強いられる現状と虐待児童の増加で職員の疲弊感が高いとの意見を逆に述べさせて頂きました。

また、食事関係においての栄養確保量やカロリー計算について、より個別的な対処をすべきとの意見がありました。

昨年、指摘された事項についてはほぼ解消されたため、今年も指摘を受けた事項については謙虚に受け止め、改善をしていきたいと思っております。



編集後記

まだまだ寒い日が続きますが、高校受験のシーズンがやってきました。先日私立高校の受験があり、当施設からも受験をした子ども達がいます。三月には公立高校受験があります。そう考えると、今年度ももうすぐ終わりのだとひしひしと感じます。その中で、様々な行事や出来事があり、今回はいつもより多めの記事を記載しました。子ども達の生活アンケートや監査などからも考えさせられる事が多くあり、今後、子ども達によりよい支援ができるようにしていきたいと思っております。